

東北紀行

Tohoku Travelogue

第13号/2017年1月/編集:丸岡泰(石巻専修大学)

なぜオーストラリアの大学で学生歌舞伎が30年も続いているのか

オーストラリア国立大学 池田 俊一

国のあらまし

オーストラリアの大きさは日本の約21倍、人口は日本の6分の1で2200万人、イギリスから独立は1901年、行政単位は8州です。オーストラリアは、大きい面積に少ない人が住む、独立後115年と歴史が浅い国です。

オーストラリアには、先住民が5~6万年前から住んでいます。18世紀末、イギリスの植民地となり、独立まで、最初は犯罪者を送る囚人の流刑地でした。今では、先祖がイギリスから来た移民だということを自慢する人がいます。のち、北欧、南欧、また第二次世界大戦の終戦後には東欧、その後アジアや中東からの移民も多く、段階的に受け入れてきました。

学校で使う世界史の教科書には日本やアメリカなどの内容がたくさん掲載されていますが、残念ながらオーストラリアについては2ページぐらいしか載っていません。その中で必ず出てくるのが「白人しかいない」という意味の「白豪主義」です。ところがこれはオーストラリア人が使う言葉ではなくマスコミが作った言葉です。かつては白人移民のみの受入でしたが、現在では多言語、多文化、他民族のいろんな人たちを受け入れています。

「人種のるつぼ」のアメリカの移民政策では移民にアメリカの言語、文化を取り入れさせるのが一般的ですが、「サラダ・ボール」と言われるオーストラリアの場合だと各出身地の文化、言語を保って良い、となっています。

教育制度

オーストラリアの教育制度は、小学校入学前の幼稚園1年を含め小学校7年間、中学校4年間の計11年間が義務教育です。日本の文部科学省が作成するような全国統一の学習指導要領はありません。校長がカリキュラムの権限を

JITR(Japan Institute of Tourism Research)-Tohoku 持つため、習得する語学や内容は学校により異なります。

大学は3年間で学士号が取れます。他に優等教育(honors degree)という4年コースがあり、これは成績が良ければ修士号を飛ばして博士課程に行ける制度で、社会的に評価され、就職・給与面で有利になる仕組みです。オーストラリアの大学は全部で39しかありません。うち国立大学は本学1校のみです。私立が2校、残りはすべて州立大学で、それぞれ独自の学びを持っています。

大学教育のもう一つの特徴は、組み合わせ学位という方式により同時に二つの学位を勉強できることです。たとえば法学部での法律と太平洋研究学部での日本語、など2つの専門を勉強でき、2学位を4年か5年で取れます。本学では65~70%の学生がこの制度を利用しています。

大学のクラブ活動の組織はないに等しいです。オーストラリアはスポーツの盛んな国ですが、その活動の場は地域のスポーツクラブであり、大学のクラブは脆弱です。私たちの歌舞伎倶楽部はこのような環境で活動しています。

学生歌舞伎が続いた3つの理由

オーストラリア国立大学では当初、日本文化に関心のある学生が現代劇を始めました。そのうち、同僚の人形浄瑠璃の研究者から歌舞伎が良いのではとの提案を受け、1980年半ばに歌舞伎に転じて、そのオーストラリアでの公演が始まり、今日まで約30年間続いています。

歌舞伎がオーストラリアの学生に受け入れられ続いた理由は、私の印象では、次の3つです。

1つ目に、オーストラリアは歴史的に新しいので、人の常として、古いものに憧れるためです。また、自分の国や外国の伝統的なものを勉強したいという学生が多く、学生は日本の伝統芸能「歌舞伎」に自然に魅かれました。外国の伝統を自分たちが演じることによって、文化を深く学びたい、それを継承している人の気持ちを理解したいという思いがオーストラリアの学生にあると思います。

2つ目に、日本の歌舞伎を自分たちが取り入れ、それを作り替え、オリジナルのオーストラリア歌舞伎を作りたいという気持ちを感じられます。

3つ目に、歌舞伎を演じることによって、自分たちが学んだ日本の伝統芸能「歌舞伎」を体得・体現して披露したいという考えがある、と感じています。

*2016年9月13日の東北支部主催「日豪交流会」(石巻専修大学5号館学生ホール)における講演の要約。

オーストラリア国立大学ザ・歌舞伎倶楽部日本公演

日本公演準備委員会委員長 根岸 海馬

オーストラリア国立大学ザ・歌舞伎倶楽部は、オーストラリアの首都キャンベラにあるオーストラリア国立大学で日本語を学んでいる学生の課外活動として、1976年に結成されました。当初は現代劇を中心に公演を行っていましたが、1980年代から歌舞伎を上演するようになり、現在に至っています。日本国外の歌舞伎の一座としては、最も長きにわたって継続した活動を続けてきました。ザ・歌舞伎倶楽部は、男子学生が女形を、女子学生が男役を演じ、日本の歌舞伎とは一味違う伝統を作ってきました。また、オーストラリアでは、歌舞伎を始めて観る観客も多いので、そうした人たちが退屈せず楽しめるようジョークやダンスを採り入るなどの工夫をしています。

ザ・歌舞伎倶楽部は、1999年に創立以来初となる日本公演を奈良と神戸で行いました。日本での再度の公演はそれ以来の念願でしたが、今回それが実現することとなりました。座員一同、この日本公演にあたって、「世界は3.11を忘れていない」というメッセージを発するとともに、実際に東北の人々の生の声を聞き、学びを深めたいと考え、石巻、気仙沼とオーストラリア国立大学の交流協定校の国際教養大学がある秋田へ行くことを決定しました。

今回は、東北の沿岸地域を中心に公演を行うということもあり、鯛売りが主人公として登場する三島由紀夫の新作歌舞伎『いわしうりこいのひきあみ鯛賣戀曳網』を上演しました。この演目は、心中物など、悲劇に終わる話が多い歌舞伎演目の中では、比較的明るくほのぼのとした人情ものです。

舞台は京都。鯛売りのさるげんじ猿源氏は街で見かけた美しい人が忘れられません。その女は東ひがしのとういん洞院の大名しか相手にしない位の高い女、ほたるび螢火。そこで、猿源氏は大名になります……。奇想天外ながら、若い二人の恋が微笑ましいお話です。

私たちオーストラリア国立大学ザ・歌舞伎倶楽部の座員は、9月5日にキャンベラを出発、東京経由で7日に秋田に到着、8日、国際教養大学で公演。9日、気仙沼へ移動、10日は震災被災地唐桑地区を訪問、翌11日、気仙沼市保健福祉センター「さんさんかん燦々館」で公演。12日に南三陸町と女川町、石巻を訪問し石巻に宿泊しました。

13日には、石巻専修大学で「日豪交流会」、翌14日に石巻市河北総合センター・ビッグバンの文化交流ホールで公演が行われました。天気が悪かったせいもあって会場



公演後の集合写真（石巻にて）

は満員にはならなかったものの、座員一人ひとりが日本公演を締めくくるにふさわしい演技を見せると、観客の方々から大きな拍手が起り、最後はスタンディングオベーションで迎えられました。また、公演後一時間近く観客の方々と座員との交流が続き、とても充実した千秋楽となりました。

この日本公演前に座員全員で、「被災地の生の声を聞き、学びを深める」そして「自分たちの公演を楽しんでいただくとともに自分たちも楽しんで演技する」という大きな目標を立てました。今回の日本公演では、座員一人ひとりがこの目標を十分達成しました。多くの座員が、帰り際に、またぜひ東北の地を訪れたいと口々に言っていました。

この公演は、東北の人々の温かさに支えられ実現したものでした。様々な形でこの日本公演を支援し成功に導いてくださった皆様、また観客として来てくださった皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

*著者はオーストラリア国立大学博士候補生。

石巻公演感想—生き生きとした自己表現力

石巻中央ライオンズクラブ 阿部 浩

オーストラリア国立大学ザ・歌舞伎倶楽部の17年ぶりの日本公演を妻と一緒に楽しみました。学生たちが難しい台詞を話すときの生き生きとした自己表現力は私の心を一瞬で魅了してしまい、そして「世界は3.11を忘れていない」という思いも伝わりました。いつの日か私もオーストラリアの地に立ちたいと思った瞬間でもありました。

*東北支部と石巻中央ライオンズクラブは日本公演に協賛。